

新たなコミュニティの創造と 地域資源を活用した暮らしの提案



23班・コミュニティデザイン学科 大山 春香 山本 桂輔 那須烏山市地域パートナー
 ・建築都市デザイン学科 橋本 紬 水谷 柊人 ・NPO法人クロスアクション 高橋 誠一 氏
 ・社会基盤デザイン学科 津野 佑登 ・那須烏山市役所 益子 昂大 氏
 ・担当教諭 佐藤 栄治 荒木 竹子 玉造 結衣 氏

1. 現状の地域課題とその背景

那須烏山市の中心部に位置する大金台地区は都市部からの移住者の多い地域となっており、住民同士の関係の希薄さや高齢化が課題となっている。そこで、地域住民同士の関係構築や若年層の流入促進が求められる。

2. 目的

大金台地区における地域内交流の促進や定住人口の増加を図るとともに、地域内に存在する資源を広く活用させ、那須烏山らしさのある暮らしを提供する。

3. 調査内容・分析方法

今回の授業に向けて、計4回の現地調査を行い、大金台地区内に建設中のキャンプ場や市民農園、周辺の観光スポットおよび農産物直売所を訪れた。また、大金台の自治会長を務める小沼さんへのヒアリング調査、および自治会の各班長宅15件へのアンケート調査を実施した。



キャンプ場の様子



キャンプ場水道



ヒアリング調査の様子

4. 調査・分析結果

①アンケート調査結果【一部抜粋】 ※有効回答：9件

Q.大金台に移住してきた理由（記述）

→リタイア後の安楽地、会社の転勤、
自分の土地で小さな畑をやりたい 他

Q.暮らしにおける良い点・課題点（記述）

良い点→自然が豊か、静か、程よい近所づきあい
課題点→高齢化、**車が必須**、**近隣との交流がない** 他

Q.近隣住民との交流頻度は？（選択）

→①全くない：1件 ②少しある：3件
③やや多い：4件 ④かなり多い：1件

Q.大金台で建設中のキャンプ場について（記述）

→良いと思う、自然環境の中で様々な体験ができる、
利用ルールを守らせてほしい

Q.今後大金台でどんな暮らしをしたいか（記述）

→静かで落ち着いた暮らし、今まで同様、
近所づきあいを活性化したい 他

②小沼さんヒアリング調査

Q.自治会でのこれまでの取り組み

→親睦会、見回り活動、高齢者向けの“いきいきクラブ”など

Q.大金台の今後の展望、構想について

→自治会員を増やす、**近所づきあいができる自治体**を目指す

5.最終提案

大金台のキャンプ場を中心に、地域の見どころや地域の野菜が購入できる直売所をまとめたマップを作り、地域住民やキャンプ場利用者に向けて配布。地域資源について触れてもらい、地域の魅力再発見や施設の利用を通じた地域内交流を育んでもらう。



キャンプ場を活用した地域内交流の例：
 ・地域でこれまで行われてきた活動の開催
 →大金台の豊かな自然をそのまま感じ取れる新たな拠点としてキャンプ場の存在を地域に定着させることができる。

・直売所と連携した野菜などの出張販売の実施
 →離れたお店に出かける必要がなくなり、車がなくても地域内で生活を完結できることに加え、地域外から訪れた利用者も地域の雰囲気を感じ取れる。

・その他地域交流イベントの開催
 →地域内交流・世代間交流の促進が期待される。

6.残された課題

今回はコロナ感染拡大による活動制限などの影響を受けて思うように調査が進まず、あまり踏み込んだ内容まで辿り着けなかった。そのため、今後自治会での活動の様子を実際に見学する、より広い対象者に向けてアンケート調査等を実施するなどの調査が実現可能とされるほか、キャンプ場の建設が進んだのちに改めてどのような活用が展開可能なのか検証できると考えられる。